



# 「本を読む子ども」だった私が、作家になるまで



裁判所書記官として働きながら執筆を続ける現在も、その姿勢は変わりません。「毎日少しでも書くようにしています。書かない期間が長くなると、物語との距離ができてしまうので。」仕事、子育て、執筆。限られた時間の中でも、書き続けることを大切にしているそうです。

2023年、『つぎはぐ、さんかく』で第11回ポプラ社小説新人賞を受賞し、作家デビューを果たした菺野江名さん。実は幼い頃から「作家になりたい」という夢を持っていたわけではなかったといいます。「図書館に行って本を読むのが好きな子どもでした。本を書くことになるなんて思ってもいませんでした」。休日は図書館へ行き、本を読み続けた日々。社会人になり、一人暮らしの時間にふと「書いてみたい」と思ったことが、小説執筆の始まりでした。



▲地元・菺野町で初めて開催された講演会。多くの来場者が耳を傾けた。



▲講演後には参加者との交流も行われた。



▲「毎日のように通った思い出の場所。今も帰省すると子どもと訪れます。」

講演会後のインタビューで、お気に入りの場所を尋ねると、迷わず挙げたのが「菺野大橋」でした。「橋を渡るときに見える御在所岳が本当に好きでした。天気の良い日は鈴鹿山脈がきれいに見えて、自転車に乗りながらよく眺めていました」。紅葉の季節には、写真を撮ることもあったそうです。離れた今でも、その景色は心に残り続けています。

さらに思い出深い場所として挙げたのが菺野町図書館です。テラスで友人とテスト勉強をしたこと、自販機で飲み物を買って語り合ったこと、今でも帰省すると子どもを連れて訪れること……。作家としての原点は、身近な風景や場所の中にありました。

菺野の景色は、今も心の原風景

## PROFILE



1993年菺野町生まれ。裁判所書記官。2023年、『つぎはぐ、さんかく』で第11回ポプラ社小説新人賞を受賞し作家デビュー。現在は東京都在住。仕事と子育てをしながら執筆活動を行っている。

- 出版作品
- 2023年1月『つぎはぐ、さんかく』(ポプラ社) 第11回ポプラ社小説新人賞受賞作。
  - 2024年9月『さいわい住むと人のいう』(ポプラ社)
  - 2025年2月『つぎはぐ、さんかく』文庫版(ポプラ文庫)
  - 2026年3月『まどろみの星たち』(ポプラ社)

今後挑戦したいことについて尋ねると、菺野さんはこう語りました。「とにかく書き続けることです」。これまでの作品とは異なるテーマやジャンルにも挑戦したいそうです。そして町民の皆さんへのメッセージとして、大人になってから始めたピラティスの話を紹介してくれました。「大人になっても、いつ、何を始めてもいいと思うんです」。作家という夢も、新しい趣味も同じです。何歳からでも挑戦できる……。そんな前向きな言葉で、地元へエールを送ってくださいました。

「続けること」が、いちばんの目標

おかえり  
なさい  
菺野町へ

# 菺野から生まれた物語

作家・菺野江名  
Komono Ena

図書館へ向かう橋の上で、私はいつも山を見ていた。

菺野大橋から見た御在所岳。放課後に通った図書館。友人と過ごしたテラスでの時間。何気ない日常の風景は、やがて小説を書く力になった。菺野町出身の作家・菺野江名さん。初の地元での講演会で語られた、“作家になるまで”と“これから”の物語。